

令和5年度 医療センター事業報告

厳しい医療情勢の中、会員医療機関の協力を得て、運営の安定と健全経営に努めた結果、検査・検診・診療3部門とも、昨年からは損益が大きく改善した。

しかしながら、医療センターとしての黒字化には至っていないため、検査依頼や患者紹介等、会員の皆様方のご協力を切にお願いし、引き続き収益増と経費削減に取り組み黒字化を目指す。

《事業項目》

1. 臨床検査部

- ① 外部委託先 SRL との共同事業運営方式 FMS を8月より導入し、機器更新や試薬等にかかる経費に削減効果が出始め経営の改善に繋がった。
- ② システムを活用した会員支援を実施し、安定したサービスの提供に努めた。
- ③ 各部門と連携し、医療センターの運営に貢献できるよう努めた。
- ④ 精度確保の安定化を図り、厳密な精度管理に努めた。
- ⑤ 医療機関のニーズに応じて柔軟な対応ができるよう業務内容の見直しを図った。
- ⑥ オンライン及び現地での学会など様々な研修会に積極的に参加することにより、技師のスキルアップに繋がった。

2. 検診部

- ① 唐津市・玄海町の特定健診・がん検診を受託し実施する。また、自治体と連携し受診率や人口動態に沿った適正化を推進した。
- ② 事業所の各種健康診断及び生活習慣病予防健診、ストレスチェックを積極的に受託し、職場の健康管理に貢献する。
- ③ 人間ドックのサービスの充実を図り、受診者の満足度を高めリピートを促すよう努めた。
- ④ 会員医療機関の特定健診等の代行入力業務を行い、個別健診の円滑な実施に協力した。
- ⑤ 契約医療保険者からの特定保健指導を受託・実施した。
- ⑥ 学校保健安全法に基づく学童・生徒等の各種検診を実施した。
- ⑦ 多様な検診実施・ニーズの変化に対応するため、職員の資質向上を図った。

3. 診療部

- ① 会員からの紹介患者に対し、積極的かつ迅速に対応し、収益の確保・安定化を図った。
- ② 急性期一般入院料5を維持し、平均在院日数及び病床利用率のバランスを図った。
引き続き下記を重視する。
 - ・地域包括ケア病床を活用する。
 - ・地域連携室を活用し、紹介医等との連携を強化する。
 - ・紹介患者の受け入れを円滑にし、新入院患者数の増加を図る。
- ③ リハビリテーション診療の今以上の強化を図る。
- ④ 更新したMRI装置について、利用率の向上を図った。
- ⑤ 電子カルテの運用を軌道に乗せ、業務の効率化を図った。

4. 諸会議

- ① 管理・診療会議、各種委員会
- ② 九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会（長崎市／7/15-16開催）
- ③ 市町保健事業等会議